

道の駅にカフェ機能を

大東文化大生 まちづくり提言



リモート
会議方式

登別

学生が登別のまちの政策を提言する「大学政策出前フォーラム in 大東文化大」が20、22日の3日間、ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」で行われた。東京の大東文化大の学生が、登別の実行委員会からまちの課題や現状を聞き、よりのまちづくりを考えた。

学生に学びの場を提供しようとして、登別の元市議会議員、現職市議らでつくる実
Zoomを活用した大学政策出前フォーラム

行委員会が毎年夏に、関東や関西の複数大学の学生を登別に招いている。今年もコロナ禍のため例年のイベントは中止となり、大東文化大からリモートの提案があり実現した。

参加したのは同大の学生10人。初日はNPO法人の取り組みや市内の公共施設の設置状況などまちの課題や現状を学び、2日目は学生が3チームに分かれ、もしも幌別東小が廃校した場合のリノベーション（大規模な建物の改修）をテーマに考えた。

最終日は学生らが政策提言を発表。防災やカフェ機能を備えた道の駅として、利活用を提案し「住み続けたい魅力のあるまちは地域住民が自らつくりだしていくもの」と強調した。

中原義勝実行委員長は「今年とは違う形だが何とか実施することができた。学生はより真剣に取り組んでくれている印象だった」と話した。

（林帆南）